

## 統計資料から、世界の現状を知る

—自分とのかかわりを持って追及する子どもの育成をめざして—

### 1. はじめに

横須賀市では、情報教育研究会に視聴覚研究部・新聞研究部・統計情報研究部の三部が属し、独自の活動をしながら共通の事項について研究を進めている。統計情報研究部では統計グラフの作成指導・授業研究・講習会などを通して、統計的な見方・考え方を育てる研究に取り組んでいる。

本研究は、6 年生の総合的な学習の取り組みを社会科の「ともに生きる地球」の単元に結び付けて展開した学習の中で、統計的な資料活用能力を育てようとするものである。

### 2. 主題設定の理由

○統計資料の活用について

ここでは次の2点をねらいとした。

- ① 「とらえる—あつめる—まとめる—読み取る—生かす」という統計教育の学習過程を繰り返すことにより、積極的な学びを深めていく。
- ② 自分の調べたい国や地域の様子を、統計資料から読み取ることで、資料を選択する力や読み取りの力をつけると共に、統計資料の良さを感じ取ることができる。

社会科において、資料活用能力は 3 年生から段階的に育成され、6 年生では、「社会的事象を具体的に調査し、地図・年表・統計など各種の基礎的資料を効果的に活用し、調べたことを表現することができるようにする。」となっている。

社会科の教科書や地図の中にはたくさんの資料が載っており、グラフは算数の教科書で扱うより多いと思われる。子どもたちは学習の中でその数値を読み取ったり、そのグラフ全体が表すものを読み取ったりしようとするが、その力は十分に育っているとは言えないこと、また、調べたことを新聞やレポート形式でまとめる際も、グラフで表そうとする子が少ないことに気づくことが多かった。

子どもたちが統計資料やグラフを効果的に活用しきれていないのは、その良さを実感していないためではないかと考える。今回の学習では自分たちの取り組んだことを発表しあう場を増やすことでグラフの良さ(わかりやすさ・伝える力)に気づかせたいと考えた。また統計資料を使って諸外国の現状を日本の数値と比べることでより実感を伴ったものとして理解させたいと考えた。

### 3. 題材の指導の始点

○総合的な学習について

ねらい…「生きていることのすばらしさや生命の尊さに気づき、自分や他人の生命を尊重する心をもって、心身ともに健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。」

昨年度の6年生、2学級76人の子どもたちは、全体的に運動能力が高く、活発な学年である。その分やや落ち着きがない点や、精神的に幼さを感じる点は否めないが、概して明るく素直である。が、高学年ともなると、「いじめ」と言うほどではないにしても、気持ちのぶつかり合いや、「いじわる」な言動は日常生活の中で見受けられる。それは、「人には優しくしよう」「思いやりの心を持とう」と日頃子どもたちに伝えるだけでは、なかなか解決につながらない。「命の大切さ」と「自分と違う他者の尊重」を子どもたちに学んで欲しいと考え、6年の学年としての総合的な学習のテーマを「命」としてスタートした。

○ 社会科「ともに生きる地球」について

子どもは本やテレビ・映画、ALT や身近に住む人々など様々なものを通して、既に多くの外国を知っている。言語や服装、食べる物が違っているのはある程度知っているが、それでも「自分たちと同じように学校に行き家族と過ごす生活をしている」と思っている子がほとんどである。

今回総合的な学習の発展でビデオや統計資料、ゲストティーチャーの話などでその視野を広げ、世界の抱える様々な問題をそこに住む子どもたちの視点から見ることで、遠い外国の話としてではなく、身近なものとして捉えて欲しいと考えた。同じ地球に今生きている仲間として、自分には何ができるのかを考え、実行しようとする気持ちを持ち続けて欲しいと願っている。

また、今回の学習では、子どもたちに諸外国に対する偏見を持たせないよう留意しなければならないと考えている。「命」に焦点を当て、世界の抱える問題を見ていくと、問題がある国＝良くない国というイメージがしやすい。異なる文化や習慣の違いやその国の環境・歴史が問題の背景にあることを子どもたちが理解するのはとても難しい。が、一面の事実をその国の全てとして捉えてしまわないように、注意して学習を進めなくてはならない。異なる文化を互いに理解し尊重することが大切であることをしっかり伝えていきたいと考えている。

4. 指導計画 ( )内はかかった時間数

	ねらい	活動の内容・展開	
第1ステップ (26)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命誕生の神秘さや家族の思いを知ることにより、命のかけがえのなさ、大切さに気づく。</li> <li>・他者の生命を尊重する心を持つ。</li> </ul>	<p><b>「いのちの不思議」</b> 生命誕生～出産の様子の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DVDの視聴と疑問・関心点の調べ学習</li> <li>・校医さんの話</li> <li>・生まれるまでの話を保護者から聞き、自分の様子を想像する。</li> <li>・助産婦さんたちの話(胎内の心音を聞く)</li> </ul>	<p>&lt;資料等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「驚異の小宇宙 人体」(DVD)</li> <li>・「道徳ドキュメント」 「みんな生きている」(TV)</li> <li>・保護者からの手紙</li> </ul>
	<p><b>「とらえる」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の子どもの現状を知ること、恵まれた自分たちの暮らしに感謝する心を持つとともに、これからの学習の課題を持つことができる。</li> </ul>	<p><b>「世界の子どもたち」</b> 「もし世界が100人の村だったら」のビデオ視聴(路上生活をする子、エイズにも感染しているカカオ農園で働く兄弟、学校に行くことが夢・赤ちゃんをひとり育てる少女、栄養不良による成長障害が不安)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「なんで子どもが働くの？大人は何をしてるの？」 「何かしたい。募金をしよう。必要な物を送ろう」</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何を送ればいいのかわからないよ。</li> <li>・何を困っているのだろう？</li> <li>・寄付もいい。でもそのお金がなくなったら、それでおしまいになる。</li> <li>・日本も援助してるって言ってたから何もしなくていいんじゃないかな。</li> <li>・原因は何？<u>いろいろな国の様子をもっと知りたい。</u></li> </ul> </div>	<p>資料等</p> <p>フジテレビ 「もし世界が100人の村だったら vol3」 「世界が100人の村だったら」 マガジンハウス発行</p>

第  
2  
ス  
テ  
ッ  
プ  
(12)  
・

### 「集める」

・統計資料から自分たちのテーマにとって必要な数値を選び、そこから状況を読み取る。

### 「まとめる」

・世界地図に書き込む。

### 「とらえる」

次の課題を見つける

8つの視点で、世界の国の様子を調べる。

- ・子どもの成長の様子(栄養状態)
- ・学校に行けているか
- ・子どもの労働の様子
- ・きれいな水が飲めているか
- ・家があるのか(ストリートチルドレン)
- ・個人の持っているお金の量
- ・赤ちゃんの生存率
- ・エイズにかかっている子どもの数



それぞれのテーマごとに、数値の低いほうから20の国を赤と黄色で、良いほうを青で世界地図に記入した。



- ・どれもアフリカが真っ赤だ！
- ・なぜアフリカの所に集まっているのか不思議に思いました。
- ・食物が育たない環境で、売るものがないんじゃないだろうか。
- ・エイズで大人が少ないから子どもが働くのかな？
- ・赤いところは知らない国ばかりだ。情報不足。
- ・**アフリカのことをもっと知ろう！**

「世界子ども白書

2006」

「統計で見る子どもの10年」

ユニセフ出版物

「朝日年鑑」社会・統計

<p>第 3 ス テ ッ プ  (20)</p>	<p><b>「集める」</b> ・アフリカについて詳しく調べることで、世界に対する認識を広げる。</p> <p><b>「まとめる」</b> ・自分たちの調べたことをグラフなどを使って効果的にまとめ、伝える。</p>	<p><b>「アフリカの様子を知ろう」</b> アフリカに集中している原因を考え、その仮説を視点として、調べを進めた。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口(人口の減少率・年齢構成)</li> <li>・戦争</li> <li>・国のお金(貧しさの理由)</li> <li>・きれいな水が飲めない</li> <li>・エイズ(エイズとは?アフリカの現状)</li> <li>・児童労働(子どもが働くのはおかしい)</li> <li>・1つも赤くならなかったエジプトはどんな国なのか。</li> <li>・チャド・シエラレオネ・ニジェール (多くの地図で赤くなっている。)</li> </ul> </div> <p style="text-align: center;">↓ クラス内で発表</p>	<p>&lt;資料&gt; 上記ユニセフ統計資料 「はたらく子どもたち」 汐文社 「21世紀の平和を考えるシリーズ」ポプラ社  新聞6紙 11月分 (朝日・読売・毎日・神奈川・産経・日経)</p> <p>&lt;講演&gt; <b>プラン・ジャパン</b> (バングラディッシュの話) <b>セーブ・ザ・チルドレン</b> (スーダン難民キャンプ・飲み水について)</p>
<p>第 4 ス テ ッ プ  (24)</p>	<p><b>「よみとる」</b> ・発表を聞き、自分たちにできることを考える。</p>	<p><b>「自分たちにできること」</b> ・自分たちにできることをいろいろ考え、その後話し合っ、やることを決めた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; display: inline-block;">     やっぱり 募金活動しよう   </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; display: inline-block;">     ただ「募金してください。」だとたくさん集まらない。知らせることが大切だ。   </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水や食べ物問題は、砂漠化が原因だと思う。</li> <li>・アフリカの人に比べ、僕たちは物をムダにしていると思う。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0; border-radius: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こういう発表を通して私たちはどれだけ恵まれているか分かった。だから、好き嫌いをなくして、<b>自分の生活を見直す</b>ことが大切だと思う。</li> <li>・今できることは少ない。でも今できることは、日本は平和だと思うこと。もう1つできることは、世界を平和にさせること。</li> <li>・地球温暖化を進めないように、<b>資源を無駄にしない</b>ようにすれば、少しは砂漠化が止められる。</li> <li>・伝える・関心を持ち続ける・身近な争いをなくす。</li> <li>・私ができることは限りがある。まずはみんなに広げることができる。家族や地域の人、鴨居小の下学年。募金活動も学校を挙げてできる。</li> <li>・少しでも環境にいいことをする。</li> </ul> </div>	<p>TV「情熱大陸」 12月放送 (ユニセフ食糧支援の話)</p>

## 「生かす」

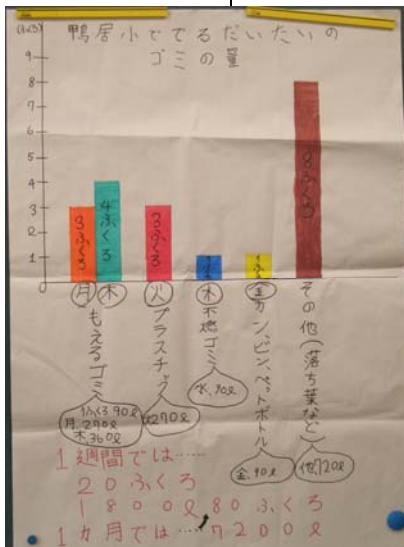
・自分たちにできることを実行に移す。

・伝える…今までに調べたことをまとめて。

日本の援助の実態を調べて

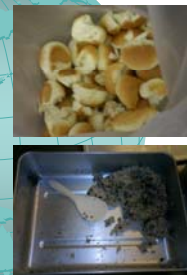
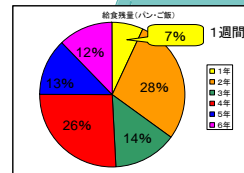
・生活を見直す→

- ・1週間分のゴミの量と内容を調べて、分別と減量をうったえる。
- ・1年間の水道の使用量と代金を調べて節水をうったえる。
- ・2週間分の給食残量を調べ、給食の残量を減らす。



## 調べた結果1

### パン・ご飯



- ・報告会…5年生は招待、他学年は事由参加
- ・給食の残量調査については、給食委員会を通して全校に放送して伝える。
- ・まとめたものを校内に展示。

## 5. 成果と課題

### (1) 統計資料の活用から世界が見えた

子どもたちは自分たちのテーマに必要なデータを統計資料から探すのにとっても苦労していた。たくさんの指標を考えながら読み、知らない国名を地図帳で確認しながらの作業だった。第2ステップでストリートチルドレンをテーマにしたグループは、2、3カ国の国ごとの資料をインターネットから見つけることができたが、全体的な統計資料は探すことができなかった。また、第3ステップで人口の減少からアフリカの様子が探れると考えたグループは、紛争があった国や、国民の所得が大きく減った国でも人口はあまり変化していないことに首をかしげた。ユニセフの資料から『統計にのらない子どもたち』と言うタイトルを見つけたり、出生登録をしない人がいることや、難民の存在を図書室の本で知ったりしながら、日本とは違う世界へ視野を広げることができたと思う。

データを探して統計資料をさんざん調べていた児童がふっと顔を上げて、「先生、これっておもしろい。数字ばかりだけど、世界がわかるね。」と言った言葉がとても印象的だった。

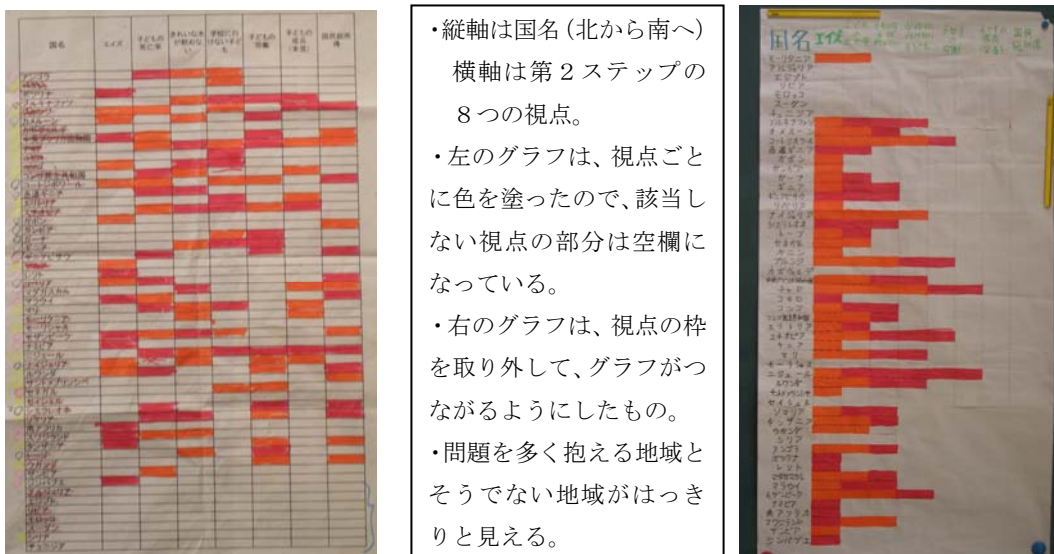
## (2) グラフの効果的な活用

- エイズや児童労働などの視点で、統計資料を見て、数値の良いほうから10と、悪いほうから20の国名を書き出した。この時点では「良いほうは有名な国が多い。悪いほうは知らない国ばかり。」といった感想であった。それを世界地図に色分けして書き込んでいく作業に入ると、どのグループからも「アフリカが赤くなった。」「何でアフリカに多いの?」という声が聞こえ始めた。、8枚の地図を廊下に掲示すると、一目で世界のアンバランスとアフリカの現状がただならぬものであることが伝わった。ため息と共に地図のグラフを見つめた子どもたちには、次の課題が明確に見え、グラフの雄弁さを実感できた瞬間だった。
- 調べたことを共有するために報告会を開くことで、効果的に相手に伝えるグラフの良さを実感でき、さらに効果的な方法を考えようとする意欲的な態度を育成することができた。

第3・第4ステップで調べたこと等を発表した。1回目はグラフはあまり使われなかったが、2回目では殆どの発表でいろいろな種類のグラフが使われた。給食の残量や校内のゴミの量をグラフにするなど、身近に問題を見出して、統計的な処理をしようとする態度を持たせることができたと思う。1回目に使ったグラフをもっと見易くする工夫もあった。子どもたちの互いの評価の中にも、「グラフは分かりやすい。」という言葉が多く書かれた。グラフの良さを実感できた結果だと考える。

アフリカの様子（世界地図を棒グラフにしたもの）

1回目に使ったグラフ（左側）を見やすく工夫した



## (3) 今後の課題

### ○ 募金活動について

「お金の寄付よりもまず知ることが大切」として第2ステップがスタートしたが、最後のステップで「募金活動をしたい」と言う声も上がった。が校内ではすでに2回募金活動が行われていたので、3回目となる募金活動に踏み切れなかった。一番大切なことは、子どもの言葉にあったように、「知ること、伝えること、ずっと心に残すこと」だと思う。が、「具体的に何かをしたい」という子どもの思いも大切にしたい。次回はこの点を子どもたちと考えて、取り組んでいきたい。

○ 資料について

統計資料はユニセフの発行したものを使用したが、指標の定義が子どもにとっては難しいものが多かった。言葉が難しく、自分たちのテーマにとって必要な統計資料を選ぶことが自力では困難だった。図書室には子供向けの本があるが、そこでは統計資料をグラフに加工したものだけでのっていることが多かった。子どもが使いやすい統計資料・子どものニーズに応じたデータを探さることが必要だと感じた。